令和7年度

教育行政執行方針

大樹町教育委員会

□はじめに

令和7年 定例第1回町議会の開会にあたり、教育委員会の教育行政執行に関する主要な方針について申し上げます。

「人づくりこそ町づくり」。いつの時代も教育は、町、地域社会の礎であり、発展の原動力です。様々な課題が山積する時代にあって、人を育て、人の夢や希望を育む営みである教育の役割は、これまで以上に重要となります。

教育委員会では、「第6期大樹町総合計画」の基本目標や、「大樹町教育大綱」の基本方針に掲げられた、「誰もが学び続けることができるまちづくり」の実現に向け、全ての町民とともに、以下に掲げる方針により教育行政を推進いたします。

□柱1 「誰もが安心して学ぶことができる学校づくり」

(1) 確かな学力の育成

I C Tの効果的活用を図り、主体的・対話的で深い学びの視点に立つ授業実践を進めるとともに、長期休業中におけるチャレンジスクールや放課後における大樹こども未来塾など、授業外の学習機会を拡充し、確かな学力の定着と学習習慣の育成を図ります。

外国語教育の充実につきましては、外国語指導助手2名体制のメリットを最大化し、ネイティブから直接学ぶ学習を充実させるとともに、授業の枠を超えて英語に親しむ機会を創出し、生きた英語力の育成に努めます。

(2) 豊かな心の育成

道徳教育においては、その要となる道徳の授業を充実させるとともに、家庭・地域と連携した開かれた道徳教育を実践し、自立した人間として他者とともに生きていく基盤となる道徳性を養います。

また、いじめに関しては、「絶対に許さない」という意識を子ども一人一人に徹底させ未然防止に努めるとともに、学校と連携を密にして早期発見・早期対応に努めます。

読書活動においては、学校司書や図書サポーターを活用し、学校図書館の更なる魅力化と読書に親しむ生活習慣づくりに努めます。

(3) 健やかな体の育成

体育専科教員の配置を生かし、子どもが「もっとやりたい」と感じる体育授業を実践するとともに、授業以外に継続的に楽しく運動

できる環境を整え、運動能力の向上と運動習慣の定着に努めます。

学校給食では、物価高騰の中にあっても、給食の質と量を担保し、子どもたちに安全で安心な給食を提供していくとともに、栄養教諭による食育指導を進め、望ましい食習慣の定着と健康な体づくりに努めます。

(4) 特別支援教育

特別な教育的支援を必要とする子どもが増加傾向にある中、全教職員による支援体制を整えるとともに、個々の実態やニーズを小中両校で共有し、9年間のスパンに立った支援に努めます。

また、個別の教育支援計画を活用し、家庭、福祉、医療等関係機関との連携を促進し、一貫した指導や支援の充実に努めます。

(5) 教育DX

一人一台端末、デジタル教科書、学習ソフトなどICTを効果的に活用した学習を進めます。また、GIGAスクール運営支援センターを活用し、ICTに関する子どもの資質・活用能力と教師の指導力の向上を図ります。また、ICT環境を通じた校務の効率化に

より教員の働き方改革を進めます。

(6) 学びのセイフティネットの構築

子ども同士の良好な人間関係や子どもと教員との信頼関係を構築し、すべての子どもが「居たい」と思える学校づくりを進めます。

不登校児童生徒に対しては、全教職員による支援体制を整え、きめ細かく、柔軟に対応するとともに、家庭、福祉、医療等関係機関との連携を強化し、学びの機会と居場所の確保に努めます。

また、LGBT理解促進法が施行され、性的マイノリティーに対する理解促進が求められる中、授業や教育活動を通じて、性の多様性を認め合う子どもの育成に努めます。

□柱2 「地域全体で子どもを育てる体制づくり」

(1) 大樹町ならではの教育の推進

小中高が1校ずつという教育環境を生かして小中高の連携を強化し、学習指導、生徒指導、特別支援教育の充実を図ります。

「大樹学」については、系統を整理し、町の産業や自然、歴史などを生かした小中高12年間を見据えたカリキュラムを編成、実施

し、本物に触れる体感と手間を大切にした学びに取り組めます。特に、全国的にも注目を浴びる宇宙関連産業を大樹ならではの教育コンテンツと押さえ、大樹学で「宇宙」を扱う学習の充実を図ります。

大樹町体験活動支援協議会（すてっぷ）では、町の豊かな自然環境を生かした体験活動と子どもたちの交流機会を提供し、子どもたちの健全育成を図ります。

（２）地域の教育力の向上

小中学校にコーディネーターを配置して学校運営協議会を活性化し、学校教育に対する保護者・地域住民の理解・関心を高めるとともに、学校の働き方改革促進を図ります。

また、「大樹町教育の日」の取組を通じて、学校教育の状況と子どもたちの成長を家庭、学校、地域、行政ともに確認し、地域の教育力向上に努めます。

（３）大樹高校の充実・活性化への支援

大樹高校への支援については、高校の持続化に向けた取組を強力に推し進めるために、これまでの取組の成果と課題を検証して見直

し、特に町内からの進学率を高めるための取組として、小中学校との連携教育の拡充、小学校段階からの児童生徒、保護者への大樹高校の魅力、特色のPRに取り組みます。また、本年度は、全国募集の第1期生が入学予定となっており、受け入れ環境を整えるとともに、地域探究科の学び等、教育活動の充実に向けた支援に努めます。

□柱3 「学び続ける人づくり」

(1) 社会教育施設の整備

学びの拠点であり、芸術・文化の中核施設である生涯学習センターは、町民が快適に利用できるよう計画的な修繕・整備に努めます。

町立図書館に関しては、図書館運営委員会、図書館のあり方検討協議会における協議を通じて、今後の図書館に関する意見や要望をまとめてまいります。

(2) 社会教育活動の推進

幼児教育では、「ブックスタート事業」や「図書館ボランティアによる本の読み聞かせ活動」の支援、青少年教育では、「あつまれ大樹っ子」の実施、成人教育では、「自主学級」開設への支援や、大樹高

校と連携した高等学校開放講座の開設、高齢者教育では、趣味や特技を生かした「ことぶき大学」の開講など、「第6期総合計画」並びに「第7期生涯学習推進中期計画」に基づき、ライフステージに応じてすべての町民が学習できる機会の充実に努めます。

(3) 社会体育施設の整備

町民プールについては、安全安心な施設管理に努めるとともに、利用期間の延長、各種水泳教室の開催など、多くの町民の皆様に使っていただくとともに健康増進に寄与する運営に努めます。

その他、多くの施設の老朽化が顕著になってきていますが、計画的に改修・整備し、各年齢層や体力に応じてスポーツに親しめる場の充実に努め、生涯スポーツ活動を推進します。

(4) スポーツ活動の推進

スポーツ関係団体等と連携して各種スポーツ教室を開催し、子どもから高齢者まで、幅広い世代が一年を通じてスポーツに親しめる機会の拡充に努めます。

部活動等の地域移行に関しては、モデル事業の実施、検証を通じ

て、将来にわたり子どもたちが様々なスポーツや文化活動に親しめるよう、本町の実情に合った地域クラブ活動設立に向けた具体的な検討を進めます。また、各種スポーツ大会を支援するとともに、全道・全国大会出場選手に対する助成も引き続き行います。

(5) 芸術・文化活動の推進

多くの町民が芸術文化に親しめるよう、文化協会や芸術鑑賞協会と連携を図るとともに、生涯学習センターを活用したコンサートや展示会を開催し、鑑賞機会の提供に努めます。

郷土資料館については、デジタルミュージアムとして、見学の利便性を高め、利用者のニーズに対応していきます。また、郷土芸能・伝承技術の継承にも努めます。

以上、令和7年度の教育行政執行に関する基本的な方針について申し上げます。今年度も本町教育の充実・発展に向けて全力を尽くしてまいりますので、議員はじめ町民の皆さまのご理解とご協力を心からお願い申し上げまして、教育行政執行方針といたします。